募集班長の模型部屋（第１０回）

　受験生モデラーの皆さん！プラモを我慢して猛勉強中の頃と思います。つらいですよね。模型を作りたいけどぐっと我慢して黙々と勉強に励む。作れないのに次々に新製品を発売する模型メーカー・・・私も高校受験の頃を思い出します。がんばれば必ず春がやってきます。そして、思いっきりプラモを作ってください！と、受験生を励ましつつも、大人の私は好きなように作っています。ごめんなさい。
　さて今回は、旧軍シリーズ第３弾

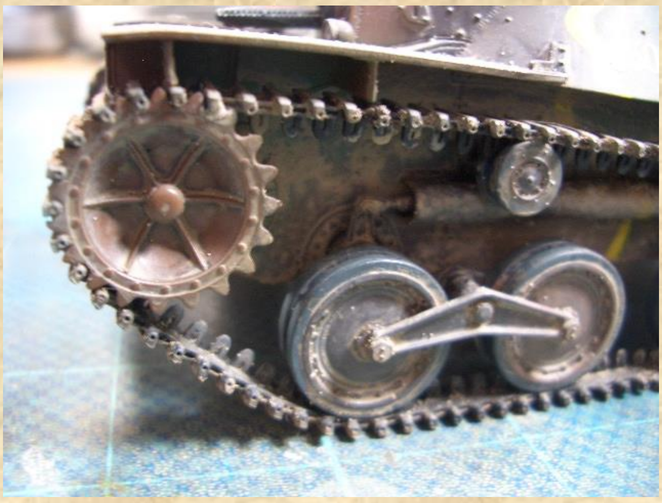
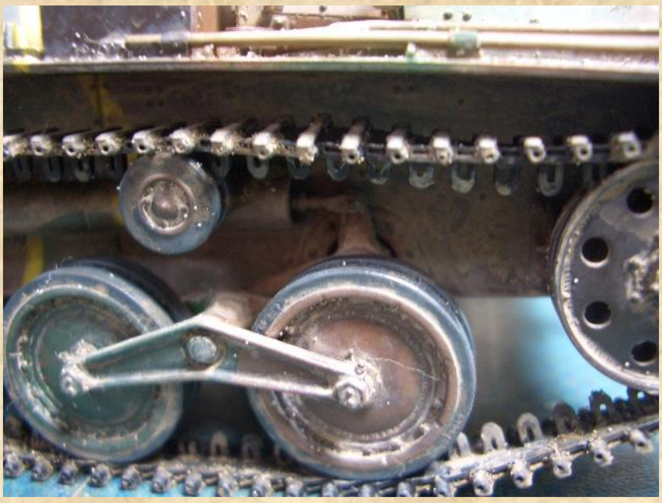
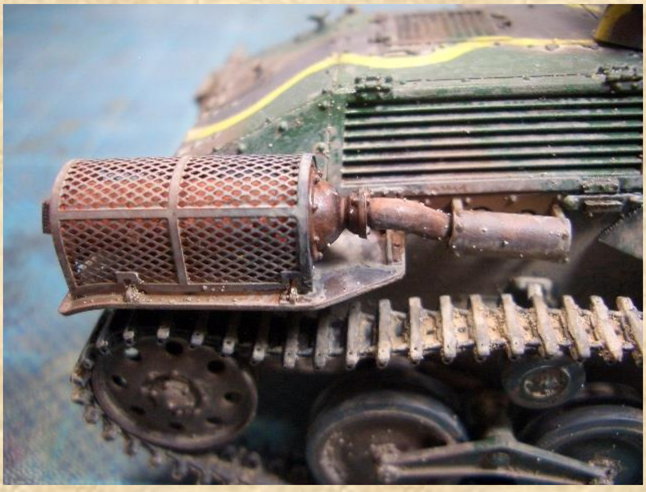
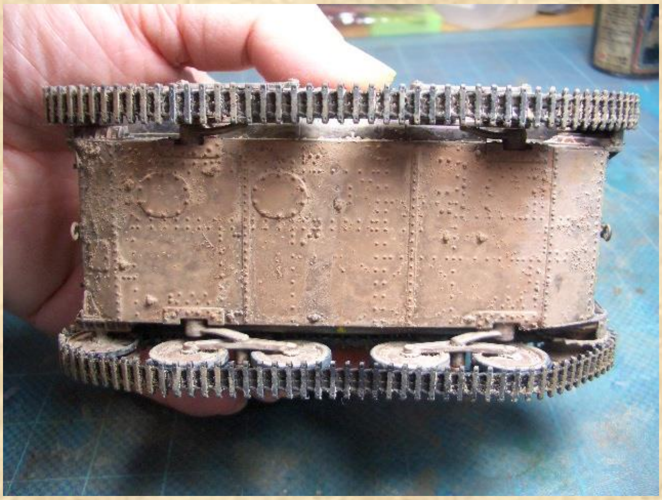
９５式軽戦車です。

　９５式軽戦車は、９７式中戦車とともに南方や大陸での戦線で使用され、高い機動性をもって大戦当初は活躍していましたが、その後は皆さんご承知のとおりです。
　キットはサイバーホビーです。ファインモールドからも同じ戦車が発売されていますが、当然新しいキットだけに、細部のモールドはもちろん、車内の装具も細部にわたり再現されています。また、発煙弾発射筒も始めて（だと思うのですが・・）キット化されており、旧軍戦車マニアにはうれしい内容となっております。また、日本発売品のみ戦車兵のフィギュアが特典として封入されており、お値段は少々高いものの、満足いただけるキットです。

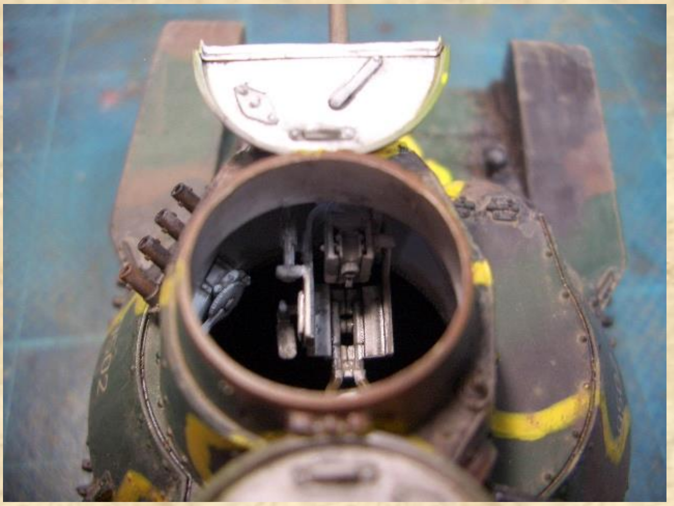
　エッチングパーツも当初から封入されており、部品を集めなくてもこれだけの形に仕上がるのはうれしいですよね。塗装はグンゼの日本陸軍戦車色セットを使用しています。黄色の迷彩色は発色の良い「キャラクターイエロー」を使用してみました。（実は、この色しか黄色がこれしかもっていなかったので・・）

　キャタピラはベルト式のものをそのまま使用しています。上部転輪に接着する際に,少し撓むようにしてみたのですが、いまいち満足できませんでした。とはいえ、カステンの可動キャタピラを購入するほどの防衛費も無いので、これで妥協！

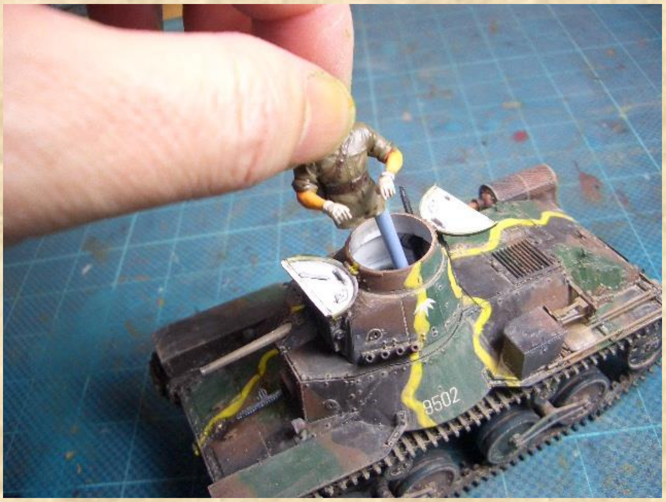
　ピグメントとタミヤウェザリングスティックを使用して車体下部を中心にウェザリングを施しています。

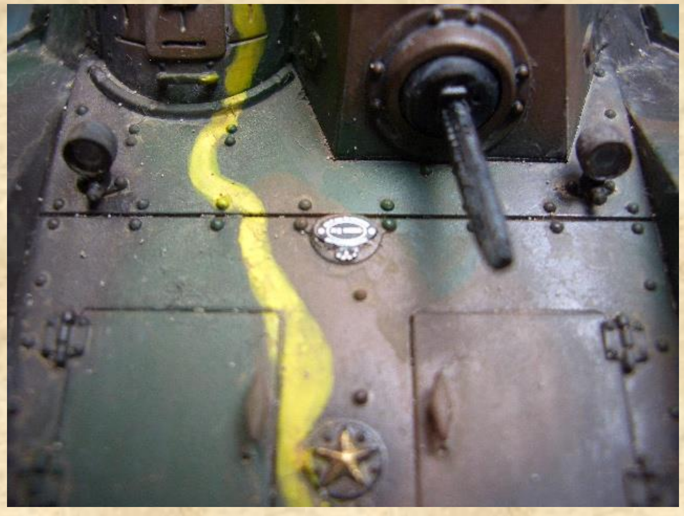
　こんな感じで、泥がこびりついて乾いた感じになったでしょうか・・・
　あまりピグメントを盛ってしまうとせっかくのモールドが埋まってしまうのでほどほどにしました。

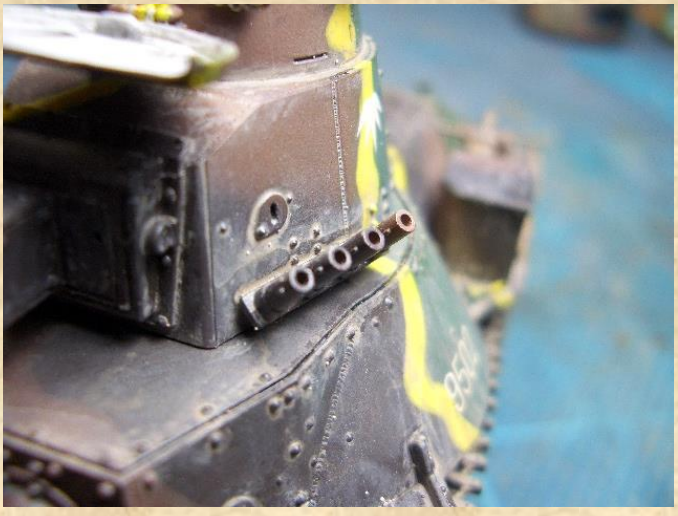


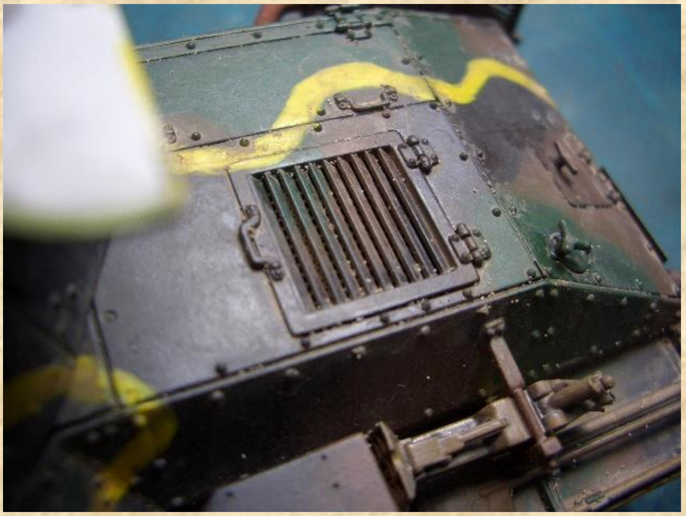
　砲塔内部まで再現されているので、作りながら先輩たちの奮闘の様子を想像しながら作りました。狭い中で戦車砲と後方機銃を操作しなければならないなんて大変だっただろうな・・・と

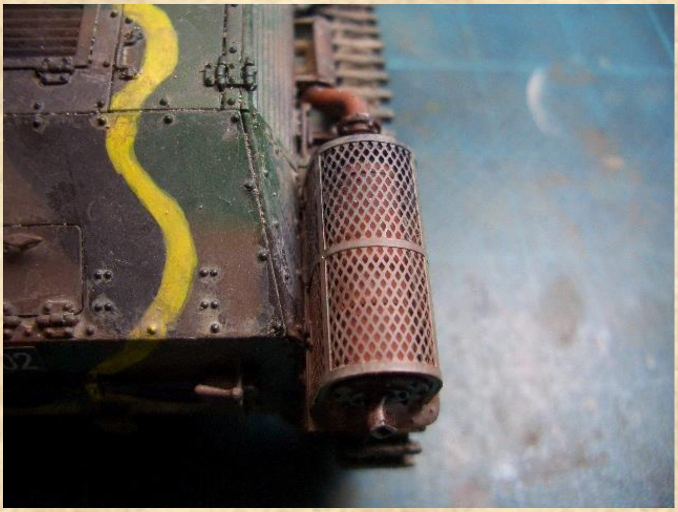


　凛々しい戦車兵は、アクリルタミヤで指示どおりの塗装ですが、顔についてはクリアーオレンジをスミ入れし、表情を浮き上がらせています。最近は、このやり方で手を抜いています。半身フィギュアですので、車体に載せる時はランナーで「接ぎ木」をして載せています。狭い砲塔からこのような状態で出るには、下半身は複雑に折り曲げているんでしょうね。









車体前部の『銘版』や、後部エンジングリルの内側メッシュ、排気マフラーのメッシュ等、ふんだんにエッチングパーツが使用されており、精密感が増します。発煙弾発射筒も砲口が最初から開いており、作る側からすると楽ですよね。最近は、砲口が最初から開いているものが多いので、メーカー側の努力が伺われます。

クリアパーツも操縦手用ハッチ内側防弾ガラス等に使用されているのですが、閉めてしまえば分からないんですよね・・・唯一クリア素材を生かせる部品が前照灯です。接着するときに、内側に塗ったシルバーに接着剤が流れ込まないように注意しましょう。

さて次回は、趣向を変えて、

８７式偵察警戒車

塗装の様子を紹介します。
またお付き合いくださいね。